

保育職ルーブリックを用いた自己評価に対する学生の認識

坂本 真由美 笠原 正洋 山田 朋子 松藤 光生 吉松 遊佳

The Students' Perception of Self-Evaluation by using Rubric for Child Care

Mayumi Sakamoto Masahiro Kasahara Tomoko Yamada Mitsuo Matsufuji Yuka Yoshimatsu

(2020 年 11 月 25 日受理)

1. はじめに

本稿は、本学教育学部において保育者を目指す学生に対して行っている、保育職ルーブリックを使った自己評価活動（以下、保育職ルーブリック自己評価活動）を通して、学生達が自己評価というものにどのような認識を見出したのか、アンケート調査から考察することを目的とする。本アンケートは、5年にわたる保育職ルーブリック自己評価活動を経て、そもそも保育職ルーブリックから学生達は一体何を得たのか、保育職ルーブリック自己評価活動の課題点は何かについて探るため学生に行ったものである。

2. 保育職ルーブリックについて

本学教育学部の保育職ルーブリックとは、保育者になるために学んできた大学4年間の学修内容について、どの程度達成したかを幼保系の学生自身が測定するためのツールである。そのツールには、「ルーブリック尺度」と「ルーブリックダイヤモンド」の2種類がある。「ルーブリック尺度」とは、4年間で達成すべき学修基準項目を示したもので、「第1カテゴリー」として5項目が設定され、それら5項目に合わせて、更に細かな25の達成項目が「第2カテゴリー」として設定されている。表1は、2019年度版保育職ルーブリックの第1カテゴリーと第2カテゴリー

の学修基準項目である。

更に、「ルーブリック尺度」には、第2カテゴリーに示す25の学修基準項目に合わせて、「力量の尺度」別の文章が記されている。「力量の尺度」とは、S、A、B、C2、C1で示された尺度で、Bの尺度を「保育者として資格・免許を取得するレベルに達している」として、学生に対し最低でもこのレベルの達成を目指すことを動機付けている。「力量の尺度」の内訳については表2に示した。

また、力量の尺度別の文章例として、第1カテゴリー「1. 保育職に関する総合的な理解と実践」に含まれる第2カテゴリーの「②保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解」についての文章を表3に示した。

次に、「ルーブリックダイヤモンド」では、学生が「ルーブリック尺度」の第2カテゴリーの25項目の力量の尺度ごとの文章を読み、自身の達成度をS、A、B、C2、C1と自己評価をつけていく。そのようにして達成度を確認しながら、自身のダイヤモンドを形作っていかうというイメージである。学生はこの自己評価作業を3回に分けて行い、毎回Bレベルの達成に向けてもしくは次の段階の達成度に向けて改善計画を書くようにした。

執筆者紹介：中村学園大学教育学部児童幼児教育学科

別刷請求先：坂本真由美、〒814-0198 福岡県福岡市城南区別府 5-7-1 mayusaka@nakamura-u.ac.jp

表4は、「ルーブリックダイヤモンド」の例として、第1カテゴリー「1. 保育職に関する総合的な理解と実践」に含まれる第2カテゴリーの「②保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解」のフォーマットを示したものである。

以上が、保育職ルーブリックの形式である(1)。次の第3項では、この保育職ルーブリックを使った自己評価活動の改善過程について見てみる。

表1 保育職ルーブリックの学修基準(2019)

第1カテゴリー		第2カテゴリー
1	保育職に関する総合的な理解と実践	① 保育の歴史、制度に関する理解
		② 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解
		③ 全体的な計画・教育課程・カリキュラムマネジメントの理解と作成
		④ 子育て支援の理解と実践
		⑤ 食育に関する理解と援助・指導
2	子供の理解及び援助・指導	⑥ 乳幼児の人権の理解と実践
		⑦ 乳幼児の発達の理解
		⑧ 特別なニーズや特別支援の必要な子供の理解と援助・指導
		⑨ 安全管理に関する理解と指導
3	子供の援助・指導についての理解と技能	⑩ 養護の理解と援助・指導
		⑪ 5領域「健康」の理解と援助・指導
		⑫ 5領域「人間関係」の理解と援助・指導
		⑬ 5領域「環境」の理解と援助・指導
		⑭ 5領域「言葉」の理解と援助・指導
		⑮ 5領域「表現」の理解と援助・指導
		⑯ 記録、デイリープログラム、指導計画及び評価の理解と作成
4	課題探究力	⑰ 自己を理解し、自己課題を認識し改善する努力
		⑱ 疑問に対して絶えず問い続け批判する思考力
		⑲ 自己の保育観育成のための研究心
5	ジェネリックスキル・対人関係能力	⑳ ICT活用能力(ワード・エクセル等での文書作成・文書管理能力)
		㉑ 情報モラルの理解
		㉒ 積極的にチャレンジし、自己表現する力
		㉓ 協調性、チームとしての連携・協働する力
		㉔ 社会人としてのマナー・常識(挨拶、服装、言葉遣い)
		㉕ 報連相、提出物の期限、持ち物管理

表2 力量の尺度

S	卓越：専門職として保育現場に出て実践できるレベルに達している。
A	優秀：専門職として現場に出るレベルに達している。
B	標準：保育士資格・幼稚園教諭免許所持者として標準的な技能や態度を実践できるレベルに達している。
C2	基礎：実習で通用するレベル
C1	初歩：保育を学んだ学生としての基本修得レベル

表3 第1カテゴリー「1. 保育職に関する総合的な理解と実践」に含まれる

第2カテゴリーの「②保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解」に関する力量の尺度ごとの文章

第1カテゴリー	第2カテゴリー	S	A	B	C2	C1
1 保育職に関する総合的な理解と実践	② 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、園の保育方針と自分が実践している保育とを関連させて考え説明ができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解しており、自分が実践している保育と関連させて思考と説明ができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得しており、自分の保育観と関連させて説明できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得し、更に何を大学の授業や実習で深めていくべきか理解している。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について、基本的な理解している。

表4 ルーブリックダイヤモンドのフォーマット例（一部修正）

		全体会Ⅰ	全体会Ⅱ	全体会Ⅲ
第2カテゴリー	ルーブリック	S、A、B、C2、C1の1つに○を付ける Bレベルまでの達成計画	S、A、B、C2、C1の1つに○を付ける Bレベルまでの達成計画	S、A、B、C2、C1の1つに○を付ける Bレベルまでの達成計画
② 保育所保育・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解	S A B C2 C1			

※実際は、全体会Ⅱ、全体会Ⅲの各欄にもルーブリックの欄（S、A、B、C2、C1）がある。

3. 保育職ルーブリックを使った自己評価活動の改善過程

保育職ルーブリックを使った自己評価活動は、2015年より、本学教育学部児童幼児教育学科の4年次後期授業である保育・教職実践演習(幼稚園)の15回の授業内で行っている⁽²⁾。保育職ルーブリック自己評価活動の方法としては、これまで4段階にわたって改善しながら行ってきた。

(1)第1段階

2015～2016年度の第1段階の保育職ルーブリック自己評価活動では、第1回目と第15回目の授業において、学生達は自身の保育者としての力量に関する各評価項目に率直にS、A、B、C2、C1のいずれかの評価を付け、その理由について自由記述をした。その結果、第2カテゴリーの項目に対し、B評価(資格・免許取得達成レベル)に達する学生が多いことがわかったため、このB評価の基準を軸に保育職ルーブリックの自己評価の達成を目指すよう動機付けを行うことにした⁽³⁾。

(2)第2段階

次に、2017年度の第2段階の保育職ルーブリック自己評価活動としては、第1回目と第15回目の授業において、学生が各項目に対し自己評価をする際に、その評価をつけた理由を自由記述するのではなく、その評価項目における自身の力量の強みと弱みを記述した。その分析の結果、強みが明確に書ける評価項目とそうではない評価項目があることがわかった。第1回目の授業で学生達の大部分がC2、C1といった評価を付け、第15回目の授業でもその評価が変わらない学生がいることがわかり、これらの学生がB評価に達成するために、どのような対策を講じるべきかという課題が明確になった⁽⁴⁾。

(3)第3段階

2018～2019年度の第3段階の保育職ルーブリック自己評価活動では、第1回目、第8回目、第15回目の授業において、3回にわたって自己評価活動を行い、自由記述においてPDCAサイクルを用いることを試みた。即ち、3回にわたるPDCAサイクルによって、学生の力量が資格・免許取得レベルであるB段階に達成するよう試みた。その結果、C2、C1評価の学生が減り、B評価を達成する学生が増え、保育職ルーブリック自己評価活動にPDCAサイクルを用

いることで、学生は自身の達成レベルを上げることにつながることが明確になった⁽⁵⁾。

(4)第4段階

2019年度の保育職ルーブリック自己評価活動においては、前年度と同様、自由記述にPDCAサイクルを用いたが、更に、学修した全科目と学生の到達度がどのように関連しているのかについても考察するため、各学修基準項目について学んだと思われる科目を記述させた。その結果、実習関連の授業で達成したという結果が多く出たため、更に実習を除く科目ごとの達成内容を学生が明確にできるような自己評価の取り組みをしなければならないという課題が生じた⁽⁶⁾。

4. 保育職ルーブリックの自己評価活動に対する学生の意識調査の概要と分析

以上の保育職ルーブリック自己評価活動の改善過程を経て、学生達は一体保育職ルーブリック自己評価活動から何を得ているのか、また保育職ルーブリック自己評価活動の課題点は何かについて探るため、2019年度の保育職ルーブリック自己評価活動では、学生に対しアンケート調査を行った。本アンケートは2020年1月9日の保育・教職実践演習(幼稚園)の第15回目の授業内で、本学教育学部児童幼児教育学科87名の受講生(男性6名、女性81名)に対して行ったものである。分析方法については、アンケートは自由記述方式であるため、学生の記述した用語・表現をキーワードとしてカテゴライズし分析した。

5. 学生が捉えた保育職ルーブリック自己評価活動のプラス面

「あなたにとってルーブリックの取り組みを通して自己評価することは、どのような意味がありますか」という質問については、プラス面とマイナス面を自由に学生に記述させた。

(1)ルーブリック自体のプラス面：評価項目の観点の多さによる思考力の深まり

保育職ルーブリック自体(評価基準)のプラス面としては、①評価項目が細かく様々な観点であったこと、評価項目によって自分の達成について考えるため思考力が深まった、②3回の評価活動であったこと、達成計画を立てこと、③視覚的な評価方法であったこと、

④記録をする意味がわかったこと、⑤自己評価の重要性がわかった、自己評価の練習になった等が挙げられていた(表5)。

(2)自己評価活動のプラス面：現実として「自己理解」「達成度」「課題点」が明確になる

保育職ループリック自己評価活動のプラス面として学生が自由記述において使用していた表現は、「客観的に自分を振り返ることができる」、「今自分ができていることがわかる、自分の成長がわかった(達成度の理解)」、「自分の足りない所がわかった(課題点)」などであった。これらの回答と近似している記述表現を表6に示す。

(3)保育職ループリック自己評価活動後に育った意識・行動

保育職ループリック自己評価活動をして芽生えた意識・行動としては、表7に示すように①目標設定ができるようになった、②力量を伸ばそうというやる気が出た、③具体的に行動する、④その他として、見通しをもつ、継続して学ぶ、復習する、責任感が育った等が挙げられている。しかしながら、ループリック自己評価活動後に、モチベーションが上がることはとても重要であるが、「やる気」という群のキーワードを使った学生は13名で、全体の14%であり、決して高い数字ではない。

表5 保育職ループリック自体のプラス面

	回答キーワード	回答実数
① 評価項目	評価項目の細かさ・様々な観点・項目	4
	カテゴリーに分かれている	3
	重点的	2
	目標が明確	4
	考えることができる・思考力が深まる	11
② 回数・計画	3回行ったこと・定期的に行われたこと	2
	自己評価のきっかけになった	1
	計画を立てること	3
③ 視覚的	評価が視覚的に認識できること	4
	視覚的に変化がわかること	3
	表が見やすい	1
	視覚的に書くこと・視覚的に自己評価の練習ができること	3
④ 記録	具体的に書くこと	1
	学びの記録になる	1
⑤ 自己評価の意味	丁寧に1つ1つ評価した	1
	自分の力を整理した	1
	自己評価を比較できた	2
	自己評価の大切さがわかった	1
	自己評価の練習ができた	1

表 6 保育職ループリック自己評価活動のプラス面

	回答キーワード	回答実数
① 自己理解	客観的	16
	振り返る	10
	見つめ直す・見直す	9
	自分を知る・自己理解・自己分析	6
	再認識	3
② 達成度の理解	何ができているか	5
	何を達成できているか	4
	今の自分の力	4
	何を理解しているか	3
	何が身に付いているか	3
	何を学んだか	2
	どんな知識・実践力があるか	2
	自分がどの位置にいるか	1
	自分の成長がわかる・達成感がある・自信に繋がる	8
	自分の得意分野	2
	自分の強い・優れている所	2
	自分の伸びた所・伸びしろ	2
③ 課題点	何が足りない・不足しているのか	29
	何が課題点なのか	11
	何が弱い・苦手・欠点なのか	8
	何ができていないのか	5
	何を改善すべきなのか	4
	何が必要なのか	3
	何をすべきなのか	2
	具体的に何に取り組めばいいのか・どんな力をつけるべきなのか	4
	何を充実させる・努力するべきか	2
	変わらなかった所がわかった	1
	自分の穴がわかった	1

表 7 保育職ループリック自己評価活動後に芽生えたプラスの意識

	回答キーワード	回答実数
① 目標設定	明確に目標設定ができる	6
	詳しく目標設定ができる	1
	レベルを上げようと目標設定ができる・前向きな目標設定ができる	2
② やる気	伸ばそう・変化しよう・改善しよう・変えようと思った	7
	やる気につながる・モチベーションが高まる	6
③ 行動	取り組むための行動をする・行動を変化させる	6
	具体的な対策を立てる	1
④ その他	見通しをもつ	3
	継続して学ぶ	3
	復習をする・学習する	5
	責任感	1
	どのような姿を意識するか	1

6. 学生が捉えた保育職ルーブリック自己評価活動のマイナス面：「評価期間が短い」「達成できていない不安感」

保育職ルーブリック自己評価活動において学生がマイナス面として捉えている自由記述について表8に示した。記述内容に基づく、①評価時間が短い、②評価基準の不明確さ、③低い自己評価をしてしまう、④甘い自己評価をしてしまう、⑤現場で育つ評価項目が多い、⑥改善の取り組み方がわからない、⑦ルーブリックの評価基準以外の力量が育たない、⑧達成できていないため不安、⑨その他として、個人の意欲によって差が出るという9つのカテゴリーに分類された。

表8における学生の自由記述は、全て保育職ルーブリックの課題として受けとらなければならない。特に、⑤の「保育職ルーブリックが保育現場に出ないと力が出ない評価基準が多い」という点については、2019年度に現場の保育士と保育職ルーブリックの基準の見直しを行ったので、保育者養成校で育成した保育の力量が、保育現場でも継続して学生達はその成長を目指すことを意識できるよう、2020年度の保育職ルーブリックはそれらを反映させ、学生の自己評価結果について更に分析してルーブリックの改善を継続して検討しなければならないであろう(7)。

また、現場の保育士たちと考えたルーブリック評価基準を使っても、学生達の自己評価が上まらないままであるのなら、更に現場の保育者らとの基準の検討が必要であるとともに、保育者養成校としての大学の授業の内容も検討をすることも必要であろう。その意味でも、吉松らとの共同研究である、保育職ルーブリックを活用した科目の到達目標と学生の学びの実態について、継続的な分析をしていくことで、本大学の授業内容と保育職ルーブリックが連携しているのかが見えてくる可能性がある(8)。

更に表8の③低い自己評価をしてしまう、④甘い自己評価をしてしまう、⑥改善の取り組み方がわからない、⑦ルーブリックの評価基準以外の力量が育たない、⑧達成できていないため不安、⑨その他として、個人の意欲によって差が出る等については、保育職ルーブリック自己評価活動の前後において、自己評価の低い学生が保育職の力量を高める意欲が損なわれることのないように、教員も一

緒に保育職ルーブリック自己評価活動に関わることが必要と考える。例えば、学生が自己評価活動をする前に、その意義を他者と共有し確認する、自己評価の結果のフィードバックについては、なぜそのような自己評価結果になったのか他者とともに考え、自覚し、学生が次の自己評価活動にも積極的に向き合えるようなフォローアップについても検討することが必要であろう。

このフォローアップについて学生達が自由記述で指摘している。「保育自体が曖昧なことが多い。だからこそ保育職ルーブリック自己評価活動において話し合いやグループでの話し合いがあるととてもいいと思う」である。即ち、他者評価との連携である。この「他者」の役割は誰がふさわしいのか、様々な方法を慎重に検討することが必要であろう。

7. 学生が捉えた保育職ルーブリック自己評価活動の意義

最後に、本アンケート調査において「あなたはこれからもルーブリックのような自己評価を続けていきたいと思いませんか」について尋ねた。この質問に関して「はい」という回答は85名、「いいえ」という回答は1名、「無回答」が1名であった。以下、「自己評価活動を続けたい」という学生の理由の自由記述を表9に示した。

表9から、学生達が保育職ルーブリック自己評価活動を続けたい理由として最も多く回答していたのが、「自分振り返る機会となるから」、「保育の専門性・質を向上させたいから」であった。特に、保育の専門性・質を向上させるためにルーブリックを続けたいという学生の自由記述には、「ルーブリックをすることで明確に自分が足りない技術や知識がわかり、次のレベルとして自分がどこを目指すかという目標が明瞭で、保育者としての専門性を維持するために必要だと思うから。自分を肯定的に見て満足するのではなく評価し続けることが大切だと考える。」、「保育者になってからも勉強し続けることは大事だと思うため、ルーブリックのような自己評価を通して、何を勉強すべきかを把握したいと思う。」、「保育現場に出ると日々の保育業務に追われてしまい自分はどうしたいのかどのように専門性を高めていくかを見失ってしまうことがあると思

ます。だからこそループリックの取り組みのように定期的に自己評価をしていく必要があると思ったからです。また保育の評価はあいまいなことが多いですがあえてS、A、B、C2、C1というような段階評価を行うことで達成感を感じることができると思います。」というような自由記述が見られた。

このように、保育職ループブック自己評価活動を通して、「保育者としての専門性や質を高めたいという意識が育った」学生がいることは、ループリックによる自己評価活動の意義として捉えることができる。

しかしながら、一方で、唯一ループリック

による自己評価活動を続けたくないと答えた学生がいることも看過してはならない。その学生は、「面倒であり評価が作業のように感じてしまったから」という理由を記述していた。

これらの結果を踏まえ、保育職ループリックについては、自己評価活動に参加する多くの学生達が、ループリック自己評価活動をして良かったという自信に繋がるよう、そしてループリックによる自己評価活動が機械的な作業にならないよう、学生の実態を把握しながら保育職ループリックの改善を継続して研究し続ける必要があるであろう。

表 8 保育職ループリック自己評価活動のマイナス面

	回答キーワード	回答実数
① 時間	時間がかかりすぎる	5
	評価期間・時間が短い	13
	早い時期から・定期的に	2
② 評価基準	評価しづらい	2
	項目・カテゴリーが多い	2
	基準が曖昧・わからない	3
	基準が難しい・答えるのが難しい	2
	正解がわからない	1
③ 低い自己評価	達成できていない・学びが足りていない・足りない部分が多い	6
	自己評価が低い・成長低い・満たない	3
	Bに達しない・評価が上がらない・満たない	4
	実感がない	3
	Sになるのか・上に上がるのをあきらめてしまいそう	2
④ 甘い自己評価	自己評価なので甘くつける	6
	自分の評価でいいのかわからない	3
	自己評価なので人によって基準が違う	3
⑤ 現場で育つ基準	保育現場に出から評価する項目が多い・大学での実践では育たない	6
	大学での実践、実習だけでは力につかない	6
⑥ 取組方が不明	改善計画が実行できない・目標を立てただけ	5
	改善計画がわからない	2
⑦ 他の力量の育ち	型にはまってしまう	1
	ループリック評価項目以外の大切な力が育たない	1
	B評価達成を重視しすぎて内容が身に付いているのか	1
⑧ 不安	自信を失う、落ち込む、がっかりする	10
	不安になる	9
	現場に通用するのかと不安になる	5
	不安だがとても大切・頑張ろうと思う	2
⑨ その他	個人による意欲の差が出る	5
	意欲に繋がればいい	1
	継続が大切	1

表 9 ルーブリックのような自己評価活動を続けたい理由

	回答キーワード	回答実数
① 時間	長期的に自分の力量を振り返ることが大切であるから	4
	短時間でもできる自己評価を考えてみたいから	1
② 機会	自分を振り返る機会になるから	12
③ 力量の向上	学習していかなければならないから	3
	自分の力量を付けていかねばならないから	7
④ 力量の項目	評価項目がわかりやすかったから	4
	評価項目を選んだり絞ったりして力量をつけることができるから	2
⑤ 目標・意欲	目標が持てるから	2
	意欲・モチベーションが高まるから	4
	自信・成長・達成感に繋がるから	7
	行動に繋がるから	4
	バランスよく力がつくから・独りよがりな保育にならないから	2
⑥ 保育の専門性・質	目指す保育者像がわかるから	7
	現場の多忙な日々の中で自分の力量を高めていく事は大切だから	3
	より良い保育を行いたいから	6
	保育の専門性・質を向上させたいから	12
	目的を失わず自分の保育観を育てたいから	5
	柔軟性のある保育者になりたいから	1
	責任だから	1
	保育現場でもPDCAサイクルを活用してきたいから	2

8. おわりに

本稿では、学生が保育職ルーブリック自己評価活動にどのような認識をもっているかを考察するため学生にアンケート調査を行った。その結果、保育職ルーブリック自己評価活動を通して、学生達は、振り返ることの意義を認識している実態が明らかになった。また、保育現場に入ってから、保育者としての専門性及び保育の質を高めるためにも、自己評価活動は重要だという、保育者としての力量形成の意欲の涵養につながった点も明らかになった。しかし、保育職ルーブリック自己評価活動によって現場に入っていくことに対して不安も生み出していることも明らかになった。

今後は、大学4年間の学びで、学生が「自信が付いた」、「成長を実感した」と言える達成度が測れるルーブリックの見直しをしていく必要がある。そのためにも、「保育現場に出ないと身に付かないこと」と学生が諦めの気持ちにならぬよう、「大学でこれだけ力をつけたから、保育現場で生かしてみたい」というような意欲と自信と実感を育てる保

育職ルーブリックを、教員全体でも共有できるよう、教員全体と検討と研究を重ねていくことが課題である。

註・引用文献

- (1) 保育職ルーブリックの形式の説明については、坂本真由美・笠原正洋・山田朋子・吉松遊佳(2018)「教職の学修の現状と課題による一考察—幼保系ルーブリックによる学生の自己評価から—」中村学園教職研究第2号 11頁でも説明している。
- (2) 保育・教職実践演習(幼稚園)の授業は、2006年中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」が出され、大学教職課程に導入された必修科目である。本学では教育学部児童幼児教育学科4年次幼保系学生の後期科目として開講され、4人の教員がオムニバス授業を行っている。
- (3) 坂本真由美、「保育職(保育士・幼稚園教諭)としての専門技能と社会人基礎技能の統合を目指して」中村学園大学教育学部児童幼児教育学科FD研修会資料、201

6年2月4日。例えば、2016年度の保育職ルーブリックでは、全評価項目においてB評価が最も多かった。

(4) 坂本真由美・笠原正洋・山田朋子・吉松遊佳(2018)「教職の学修状況と課題による一考察—幼保系ルーブリックによる学生の自己評価から—」中村学園教職研究第2号、10—14頁。

(5) 吉松遊佳・笠原正洋・坂本真由美・松藤光生(2019)、「PDCAサイクルを用いた保育職ルーブリックの自己評価の実態と課題」中村学園教職研究第3号8—11頁。

(6) 吉松遊佳・野中千都・笠原正洋・吉川寿美・倉原弘子・坂本真由美・那須信樹・桧垣淳子・古相正美・松藤光生・山田朋子・

浦恭子(2020)、「「自ら学び続ける力」を備えた保育者養成課程の開発的研究(3)—保育職ルーブリックを活用した科目の到達目標と学生の学びの実態—」中村学園教職研究第4号38—41頁。

(7) 坂本真由美・野中千都・笠原正洋・吉川寿美・倉原弘子・那須信樹・桧垣淳子・古相正美・松藤光生・山田朋子・吉松遊佳・浦恭子(2020)、「「自ら学び続ける力」を備えた保育者養成課程の開発的研究(2)—外部評価による保育職ルーブリック基準の見直し—」、中村学園教職研究第4号32—37頁。

(8) 吉松遊佳、前掲書、2020。